

スペイン史学会大会 第45回大会 中近世イベリア半島における イスラーム観の変容

レコンキスタ期・ムデハル期・モリスコ期の 比較検討

日時：2024年10月27日（日）13:00～18:00

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス
来往舎シンポジウムスペース

Zoomによるオンラインとの併用

◆ José Manuel Rodríguez García (スペイン国立
通信教育大学)

La visión cristiana del enemigo musulmán al otro
lado de la frontera ¿Conquistar, eliminar,
integrar? El caso ibérico

(境界の向こう側にいる敵性ムスリムへのキリスト教徒
の眼差し：征服か、排除か、統合か?) ※通訳あり

◆ Clara Almagro Vidal (スペイン国立通信教育大学)

La percepción de los musulmanes bajo dominio
cristiano en tierras de órdenes militares

(騎士修道会領におけるキリスト教徒支配下に置かれた
ムスリムに対する認識) ※通訳あり

◆ 三瀆みづほ (中央大学)

「フェリペ2世期のモリスコ教化政策」

主催：スペイン史学会

共催：科学研究費補助金基盤研究 (B)

「13-15 世紀の対イスラーム宣教に見るキリスト教的世界
観の変容」(21H00586 研究代表者：阿部俊大)

後援：慶應義塾大学教養研究センター

問合せ先：スペイン史学会 (info@sjhe.org)

参加申込：QRコードもしくは学会HP (<https://sjhe.org>) から申込
(期限 10/20)

